

津市・ヤオハンジャパンが長打力を発揮。大西、中山恵ら4本の本塁打で、昨年の大会ベスト4の藤沢市・いすゞ自動車に打ち勝った。第二試合は、壮烈な打撃戦の末に今大会初の延長戦となり、鈴鹿市・本田技研鈴鹿が延長十回、与本の適時打で仙台市・NTT東北に劇的なサヨナラ勝ち。第三試合は第五十六回大会以来の初戦突破を狙う熊本市・NTT九州と、千葉市・川崎製鉄千葉が対戦した。

▽第一試合一回戦
沼津市2302011009

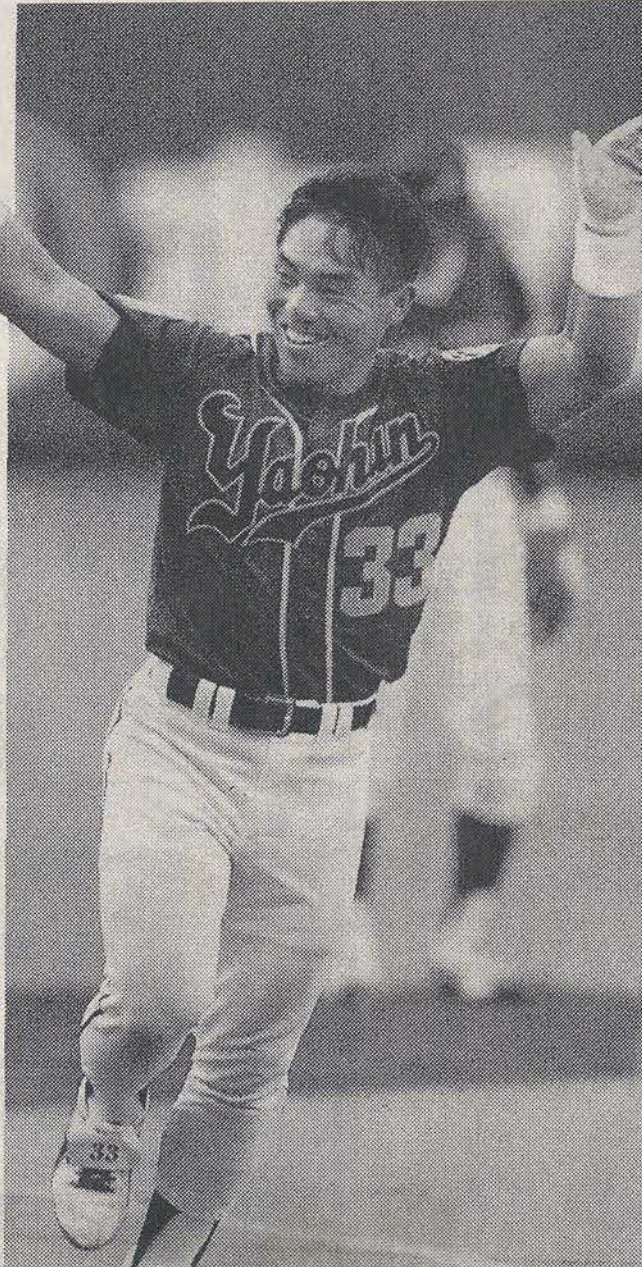
藤沢市2202000107
(ヤオハン いすゞ)

【審】西尾球)田中、伊藤、神納(聖東、藤田)櫻
沼津市が長打攻勢で初出場初勝利。一回、原の2点適時打で先制し、二回には大西、中山恵の連続本塁打で3点。その後も大西の2本目の本塁打や石黒のソロなどで小刻みに加算。先発・野末は前半こそ制球が甘く打ち込まれたが、変化球主体に粘り強い投球で完投勝ち。

藤沢市も峯山、唐真の2本の2ランなどで追撃したが、中盤から一発狙いの大振りが目立ち、五回以降は貝塚の適時打の1点のみ。沼津市・岡嶋博治監督打ち合いは予想していた。六回の大西の本塁打が大きかった。この1勝で硬さがほぐれたと思う。

藤沢市・松本輝明監督打ち勝ちたいと思っていたが、相手の打撃が予想以上だった。野末投手の緩急をつけた投球もやられた。

沼津市 初陣飾った



【沼津市・藤沢市】二回表沼津市二死、中山恵が本塁打を

1試合ごとにも強くなる

創部3年の若いチームを率いる沼津市・岡嶋監督は、自ら三塁コーチスボックスに入って選手を鼓舞する。二回の攻撃中、その監督の脳裏にひとつの絵が浮かんだ。大西の2ランが飛び出し、藤沢市の投手が安田に代わった場面だった。打席に入った中山恵と安田は、ともにスリーポンド監督時代の教え子。「中山の方が先輩。だから安田が打たれるシーンが浮かんだ」。2本目のアーチを左翼席にたたきこんだ。「もうポクが打つしかないでしょ。中

きつい再会あいさつ
○沼津市の主砲・中山恵が四回、ホーム上のクロスアップで捕手と激突して脳しんとうを起し、途中退場した。二回に右中間に

ローアーチをかけ、四回にも左前打。バットが振れていただけに無念そう。しかも、本塁打は休部にだけ複雑な気持ちで

のチームメイト、安田(三菱自動車川崎)から奪ったもの。「ドームで再会しよう、が台言葉だっただけに複雑な気持ちで

す。組み立てが読めていたので速球狙いができたが、球威はかなりアップしていた」と、かつての同僚をかばった。

その主砲を突然アクシデントが襲った。四回、三塁走者でタッチアップした際、相手の好中継で本塁横死。中山は滑り込んだ時にかんだ。大西の2ランが飛び出し、藤沢市の投手が安田に代わった場面だった。打席に入った中山恵と安田は、ともにスリーポンド監督時代の教え子。「中山の方が先輩。だから安田が打たれるシーンが浮かんだ」。2本目のアーチを左翼席にたたきこんだ。「もうポクが打つしかないでしょ。中



山さんからもそう託されたし……」
大西はヤオハンジャパンの前身、天城ベースボールクラブ時代からの数少ない生え抜き。鹿兒島商工(現・樟南)から重入に進んだが、半年足らずで学校を辞め、オリックスのテストを

受けた。最終選考で落ち、翌年、企業チーム転向を目指した。走攻守三拍子そろい、あくまでプロ入りを熱望する大西は「今年で絶対プロへ行こうつもりでプレーしている」と自己アピール。主力が抜けた穴を埋めようと燃えたのは、河合桑器からの補強組も同じ。前半球が浮いて長打を浴びた野末が五回から立ち直った。ツキもあった。八回、無死一、二塁で佐々木

正面に飛び、併殺に切り抜けた。
移籍、生え抜き、補強組がうまくかみあってのドゥ初勝利。かつてプロ野球選手時代、中口で2度盗塁王に輝き、三原、水原、西本と名監督の下で野球を学んだベテラン・岡嶋監督は「若いチームがよくここまで成長した。甲子園では試合ごとに強くなるというわれるが、いまのウチはまさにそんな感じだ」と目を細めた。